

第二回日本数学会関孝和賞受賞講演 ‘正多面体とサッカーボール’

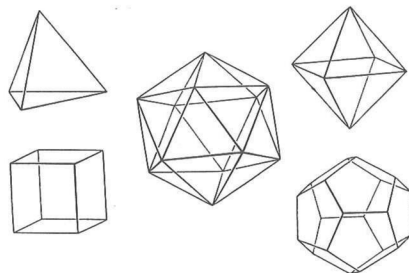
フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ

(80年から95年まで、マックス・プランク数学研究所所長)



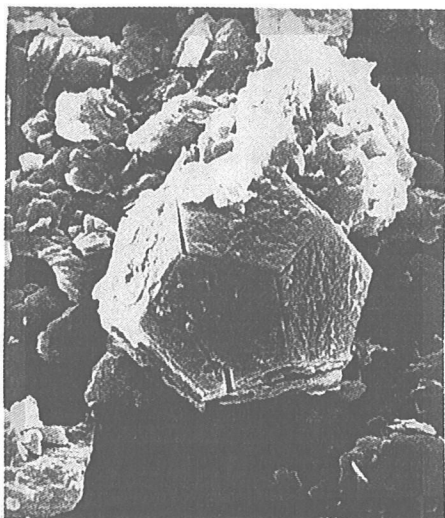
1996年11月9日東京大学における受賞講演

正多面体はユークリッドの本（BC 300年頃）の中で論じられています。まず、正多面体をお見せしましょう。



正多面体は自然界や芸術作品にも登場します。正12面体の例として次のようなものがあります。

Le dodécaèdre en argent
trouvé à Saint-Pierre de Genève



Coccospähre von Braarudosphaera bielowi
Vergrößerung etwa 5000 X

Aus dem Miozän (vor ca. 20 Mill. Jahren)
S. A. Jafar, Tübingen, 1975



Lors de la campagne archéologique de fouilles entreprise à l'occasion de la dernière restauration de la cathédrale de Saint-Pierre à Genève, un dé romain en forme de dodécaèdre, datant du 4^e siècle après Jésus-Christ, a été mis au jour. Les 12 faces pentagonales en argent portent les 12 signes du zodiaque: il est rempli de plomb (poids 297 g). Le «dé» a probablement servi à la prédiction de l'avenir par le jeu, mais la provenance et l'utilisation restent inconnues pour l'instant.

これはシュプリンガー・フェアラグのグッツ氏からいただいたものです

正多面体は次のような性質を持っています。各面は正 n 角形、各頂点(かど)から m 個の辺が出ています。どのような自然数 m, n が可能でしょうか？

n 角形の内角の和は

$$(n-2) \cdot 180^\circ$$

です。したがって

$$m \cdot \frac{n-2}{n} \cdot 180^\circ < 360^\circ$$

となります(各頂点での角の和は、凸多面体であることから 360° より小さくなります)。この式は

$$\frac{1}{n} + \frac{1}{m} > \frac{1}{2}$$

と同値です。 $m \geq 3, n \geq 3$ であるこの不等式の自然数の解は $(3,3), (4,3), (3,4), (5,3), (3,5)$ だけです。ドイツ語ですが次のトランスペアレンシーをお見せしましょう。

$n = \text{Valenz der Flächen}$
 $m = \text{Valenz der Eckpunkte}$
 Winkelsumme im n -Eck =
 $(n-2) \cdot 180^\circ$, deshalb
 $m \frac{n-2}{n} \cdot 180^\circ < 360^\circ$
 $\frac{1}{n} + \frac{1}{m} > \frac{1}{2}$
 $e \quad k \quad f$

Polyeder	n	m	b_0	b_1	b_2
Tetraeder	3	3	4	6	4
Hexaeder	4	3	8	12	6
Oktaeder	3	4	6	12	8
Dodekaeder	5	3	20	30	12
Ikosaeder	3	5	12	30	20

Plato
 Feuer
 Erde
 Luft
 Kosmos
 Wasser

正多面体のギリシャ語での名前は英語とほとんど同じですが、日本語でもあまり変わらないと思います。プラトンは私たちの世界を構成する基本的な元素を5個の正多面体と関連づけました。

b_0, b_1, b_2 はそれぞれ多面体のかど(頂点)の個数, 辺の個数, 面の個数を表します。ギリシャ語の名前は面の個数からきています。ドイツでは b_0, b_1, b_2 のかわりに e, k, f が使われます(Ecken, Kanten, Flächen)。 n, m から b_0, b_1, b_2 を計算することはできるでしょうか？まず

$$b_0 m = 2 b_1$$

$$b_2 n = 2 b_1$$

が成立します。この両式とオイラーの公式

$$b_0 - b_1 + b_2 = 2$$

を思いきって使うと

$$\frac{1}{n} + \frac{1}{m} - \frac{1}{2} = \frac{1}{b_1}$$

を得ます。こうして b_0, b_1, b_2 を n, m を使って表すことができます。 n, m を入れ替えることは b_0, b_2 を入れ替えることとなりますので、この入れ替えは次のようになります。

正四面体——正四面体

正六面体（立方体）——正八面体

正12面体——正20面体

この左辺と右辺に現れる正多面体の間の密接な関係についてはまもなく分かります。

SCHWEIZERISCHE NATIONALBANK
BANCA NAZIONALE SVIZRA



まず、オイラーの公式についてお話ししましょう。オイラーはバーゼル（スイス）で1707年に生まれ、1741年から1766年までベルリンのプロシアアカデミーでフレデリック大王のもとで働きました。オイラーは“応用数学”の分野でも天才であり大王の死まで多くの技術上の問題でフレデリック大王を助けたが、大王はオイラーを冷遇しました。1766年から1783

年まではサンクトペテルブルクのロシアアカデミーでエカテリーナ二世のもとで働きました。エカテリーナ二世はフレデリック大王の場合よりはオイラーを優遇しました。オイラーの肖像はスイスの紙幣に登場します。

ついでにドイツの紙幣に登場するカール・フリードリヒ・ガウス（1777-1855）もお見せしましょう。ガウスの曲率に関する仕事はオイラーの公式と密接に関係しています。オイラーの公式はどのようにして証明するのでしょうか？

ここでは、任意の凸多面体に対してオイラーの公式が正しいことを証明しましょう。多面体の表

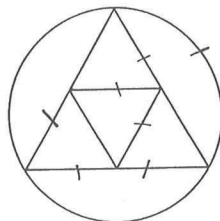


Fig. 48

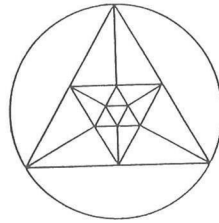


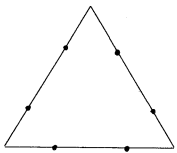
Fig. 49

ラーデマツヒャー・テプリッツの有名な本“数と図形”から

面は平面に射影することができます。面は国になります。一つの国は大洋と考えます。この大洋の中に無限遠点を仮想的につけ加えて平面を球面にします。この考え方は前頁の図で示されます。

この絵は正20面体と正8面体の図を表しています。ダムを開いて(辺を一つ取り除いて)水を入れてみましょう。辺が一つなくなり、二つの国が一つになります。もしも水がある辺の一方の側しか入っていないときにはさらにダムを開けましょう。その度に b_1 は1減り b_2 も同じく1減ります。すると、辺がつながってできた紐(輪を持たない)と一つの国(海がすべてを覆ってしまいました)になるまで $b_0 - b_1 + b_2$ は変化しません。この最後の状態では $b_0 - b_1 = 1$, $b_2 = 1$ ですから, $b_0 - b_1 + b_2 = 2$ となり, 最初の状態でも $b_0 - b_1 + b_2 = 2$ であることが分かります。

正20面体と正12面体の関係は対称変換の群を調べることによって明らかになります。対称変換というのは多面体を多面体に移す, ある軸に関する適当な角度の回転のことで, 正20面体と正12面体は6本の対称の軸を持っています(正20面体の場合は頂点とその反対側の頂点を結んでできる軸, 正12面体の場合は面の中心とその反対側の面の中心を結んでできる軸です)。これらの軸のまわりに $k \cdot 72^\circ$ ($k=1, 2, 3, 4, 5$ 次)の対称変換)の回転ができます。同様にして10本の3次の対称変換の軸, 15本の2次の対称変換の軸があります。対称変換の個数は全部で $6 \cdot 4 + 10 \cdot 2 + 15 \cdot 1 = 59$ になります。対称変換の群は, 恒等変換も含めますので $N=60$ 個の元からなります。すべての正多面体に対して $N=2b_1$ が成り立ちます。対称変換の群の観点からは正20面体と正12面体, 立方体と正8面体とは区別することができません。一方の正多面体の面の中心と他方の正多面体の頂点とが互に対応しています。



さて, 正20面体を考えてみましょう。正20面体上の特別でない点(頂点, 辺の中点, 面の中心以外の点)を取り, すべての対称変換をその点に施してみましょう。すると60個の点が得られます。これは与えられた点の対称変換の群による軌道です。たとえば, 正20面体の面(三角形)を選びその境界上の点, ただし頂点や辺の中点以外の点を取ってみましょう。

すると軌道はそれぞれの辺に2個の点からなる60個の点になります。

さて, サッカーボールを調べてみましょう。普通, サッカーボールは60個の頂点を持った12個の黒い5角形を持っています。これは, 上で述べたような軌道になっています。通常のサッカーボールは三角形上の点が三つの等しい部分に分かれている場合に対応します。面の中に正六角形ができます。かどに近い軌道の5点を通る平面で正20面体の六角形のかどの部分を切り取ることができます。このようにして, 12個の正五角形と20個の正六角形からなるかどを落とした正20面体ができます。したがって, $b_2 = 12 + 20 = 32$ となります。また, $b_1 = 30 + 60 = 90$, $b_0 = 60$ となります。 $60 - 90 + 32 = 2$ となり, オイラーの公式が確かめられます。

次に, かどを落とした正20面体の化学での応用について述べましょう。

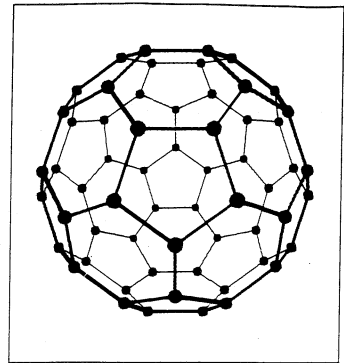


Abb. 1. Perspektivische Darstellung des fuballfrmigen C_{60} Molekls. Die Kohlenstoffatome befinden sich an den Ecken eines Polyeders, das Fnf- und Sechsecke als begrenzennde Flchen hat (sog. gekapptes Ikosaeeder). Im Unterschied zum idealen Polyeder mit gleichen Kantenlngen sind im realen C_{60} Molekl die Abstnde benachbarter Kohlenstoffatome nicht alle identisch. Einschlielich seiner Elektronenwolke hat das Molekl etwa 1 nm Durchmesser.

Dr. Wolfgang Krtschmer, Max-Planck-Institut fr Kernphysik, Heidelberg
Kenstcs Feshchepovsks
Donald R. Huffman, Tucson, Arizona

60個の炭素原子が、かどを落とした正20面体の頂点に位置している炭素分子C₆₀があります。前に述べたように、これは正20面体群の軌道です。1996年10月10日のFrankfurter Allgemeine Zeitung¹に“サッカーボール狂の研究者達”と題する記事が載り、その中でノーベル化学賞がHarold W. Croto (英国), Robert F. Curl, Jr.とRichard E. Smalley (共に米国)にC₆₀の発見に対して与えられると報じられました。おめでとう！C₆₀の多量合成に成功したハイデルベルクのマックス・プランク核物理学研究所のWolfgang Krätschmerも候補者としてふさわしかったと言われています。日本人の科学者もこの件では関係していることを知っています。しかしながら、ユークリッドとアルキメデスもこの賞を分かちあうのにふさわしいと思われま

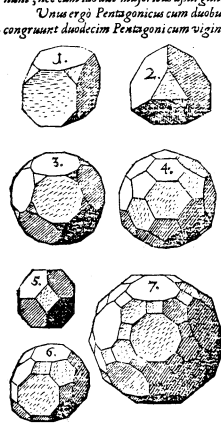
す。すべての面が正n角形で(しかしnは変わってもよい、たとえば、かどを落とした正20面体の場合はn=5,6になります),すべての辺の長さが等しく、各かどが互に対称変換で移すことができる多面体をアルキメデス多面体と呼びます。13個の興味深いアルキメデス多面体があります。ケプラーは、1619年に出版した「世界の調和」(Harmonices mundi)²の中でそれらをすべて取り上げその性質を研究しています。

64 DE FIGURARUM HARMON:

que imparilaterarum rejicitur, per XXIII, cum duobus Octogonis, planum locum implet: cum majoribus etiam superat a rectoris; nec asurgit ad solidum angulum formandum. Ita truncatum est cum Tetragono, cum due sola debent esse planorum speciei.

Duo Pentagoni cum uno Hexagono aut quocumq; alio unico rejectum quid inchoant, per XXIII, quod supra etiam de Trigonis & Tetragonis cum binis Pentagonis usurpavimus. Insuper cum uno Decagono planities sterant, nec cum illo aut majoribus asurgunt in soliditatem.

X. Truncum Icosahedron.



XI. Rhombicosidodecahedron.

Unus igitur Trigonis cum duobus Tetragonis & uno Pentagono, minus efficiunt a rectoris, & congruunt 20 Trigonis cum 20 Tetragonis & 12 Pentagonis in unum Hexacontahedron, quod appello Rhombicosidodecaedron, seu fihum Rhombum Icosidodecaedricum. Pingitur num. 11. sol. antecedenti.

Unus Trigonis, duo Tetragonis, cum uno Hexagono, aequant rectoris quatuor; cum uno majori, superant; nec ad solidum asurgunt. Mittamus igitur duos Tetragonos.

Unus Trigonis, unus Tetragonis & duo Pentagonis superant a rectoris; multo magis si binii majores plani anguli admiscerentur. Desinant igitur misceri anguli plani quaterni ad firmandum unum solidum definit ergo & Trigonum ingredi mixturam triplicem. Nam unus Trigonis, unus Tetragonis &

62 DE FIGURARUM HARMON:

Cum enim miscantur in hoc gradu figuræ diverse, quare per propof. XXI. miscbentur aut duarum aut trium specierum figuræ. Quæ solidarum, tunc inter eas vel sunt Trigonis vel non sunt.

Apr ex Trigonis & Tetragonis sunt solida tria, quibus quidem def. IX. conprect. Nam illa rejicit formæ hæc tres, in quibus solidum angulum claudunt, cum uno Tetragono plano angulo, tam duo, quam tres plani Trigonis; aut cum duobus Tetragonis, unus Trigonis; quia in primo casu unus solus Tetragonus est, sitq; dimidium Octaedri, & anguli solidi sunt diversiformes; in secundo duo soli Tetragonis, in tertio duo soli Trigonis, quæ p. X. sunt imperfectæ & congruentiæ. Resistant ergo modis hiis, in quibus angulum solidum claudunt i. lani. Primum, quatuor Trigonis & unus Tetragonis. Sunt enim minores a rectoris. Congruunt igitur sex Tetragonis & Triginta duo (id est 20 & 12) Trigonis; si figurae a Triscentisobedrica, quod appello Cubum finium. Hic in cibernate sequenti pictus est Numero 12.

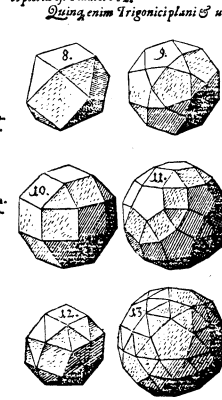
Oei

I. Cubus finium.

II. Rh. Cub. octaedros.

III. Rhombicosidodecaedron.

IV. Dodecaedron finium.



Quing. enim Trigonici plani & unus Tetragonis superant quatuor rectoris, cum debeant ad solidum claudendum esse minores quatuor rectoris, per XVI. Sic etiam quatuor Trigonis & duo Tetragonis, Tres vero Trigonis & duo Tetragonis faciunt quatuor rectoris. Secundo duo Trigonis & duo Tetragonis minus habent quatuor rectoris; Hic igitur congruunt octo Trigonis & sex Tetragonis ad formandum unum Tetraekedecadron, quod cuboïdædron appello. Pictum est hic numero octavo. Duo vero Trigonis cum tribus Tetragonis superant a rectoris. Tertio unus Trigonis & tres Tetragonis minus habent a rectoris. Hic ergo congruunt octo Triangula & octodecim (id est 12 & 6) quadrangula, ad unum Icosidædron, quod appello fectum Rhombi Cuboïdædricum: vel Rhombicosidodecaedron. Pictus est hic numero 10. In his igitur tribus sunt Tetragonis iuxta Tetragonos; sequitur vii & Pentagonis si formam aspicimus. Quing. plani Trigonici iuxta unum Tetragonum non sunt, quia nec iuxta minorem eo, Tetragonum, stare poterant. Quatuor ergo Trigonis, cum uno Pentagono, minus efficiunt a rectoris, & congruunt octoginta (id est 20 & 60) Trigonis, cum duodecim Pentagonis, ad formandum Ennecontahedron, quod appello Dodecaedron finium. Pingitur hic numero 13. Et in hoc ordine finium, Icosidædron posuit esse tertium, quod est quasi Tetraedron finium.

4番目がかどを落とした正20面体(サッカーボール)です。

“... et congruunt duodecim Pentagoni cum viginti Hexagonis in unum Triacontahedron, quod appello Truncum Icosihedron. Formam habes signatam numero 4.”³

¹ ドイツの代表的な新聞の一つ

² 宇宙の和音と訳すこともできる

³ 合同の12個の正5角形と20個の正6角形を寄せ集めて、かどを落とした正20面体と呼ばれる32面体ができる。図形番号4

化学者は、各頂点から3本の辺が出て正5角形と正6角形だけからなる多面体に興味を持っています。彼らは、こうした多面体の頂点に炭素原子が位置する炭素分子を発見しようとしています。古典的な化学の教えるところによれば炭素は原子価4を持っています。さて、このような多面体を使うと、それぞれの炭素原子は辺で他の3個の原子と結ばれます。したがって一つの辺では二重結合になります。このようなケクレ構造をサッカーボールに与えることができます。二つの6角形の間の辺では二重結合になります。化学では上のような性質を持った多面体を有名な建築家 Buckminster Fuller (1895-1983) にちなんでフラレンと呼んでいます。

オイラーの公式からフラレンでは5角形の数は常に12になります。このことを示すために凸多面体に対して同じ公式をまず証明しましょう。 r 個の辺が出ている頂点の個数を $b_0(r)$ とし、 r 個の辺で囲まれる面の個数を $b_2(r)$ とします($r \geq 3$)。すると

$$\begin{aligned}\sum b_0(r) &= b_0, & \sum b_2(r) &= b_2 \\ \sum r b_0(r) &= 2b_1, & \sum r b_2(r) &= 2b_1\end{aligned}$$

が成り立ちます。すると、オイラーの公式より次の式が得られます。

$$(*) \quad \begin{aligned}12 + \sum (r-6) b_0(r) + \sum (2r-6) b_2(r) &= 0 \\ 12 + \sum (r-6) b_2(r) + \sum (2r-6) b_0(r) &= 0\end{aligned}$$

最初の式は

$$12 + 2b_1 - 6b_0 + 4b_1 - 6b_2 = 0$$

と同値になり、これはオイラーの公式に他なりません。添数の0と2とを取り替えることによって二番目の式も同様に示されます。フラレンに対しては、 $r \neq 3$ のとき $b_0(r) = 0$ 、 $r \neq 5, 6$ のとき $b_2(r) = 0$ より、二番目の式から $b_2(5) = 12$ が得られます。最初の式からは

$$\begin{aligned}b_0 &= 20 + 2b_2(6) \\ b_1 &= 30 + 3b_2(6) \\ b_2 &= 12 + b_2(6)\end{aligned}$$

が得られます。 $b_2(6) = 0$ の場合は正12面体、 $b_2(6) = 20$ はサッカーボールにあたります。6角形の個数 $b_2(6)$ は2以上の任意の値を取りうることを示すことができます。化学の文献には(正確な引用文献を忘れてしまいました)与えられた b_0 に対してフラレンのすべての組み合わせ論的タイプをコンピュータを使って計算したものがあります。 $b_0 = 60$ のときは異なるタイプの数は1760になります。しかし、5角形が互いに交わらないものはただ一種類、すなわちサッカーボールしかありません。 $b_0 = 78$ のときは21822個のタイプがありますが、5角形が互いに交わらないものは5種類だけです。

(*)の二番目の式から、凸多面体では

$$3b_2(3) + 2b_2(4) + b_2(5) \geq 12$$

が常に成立することがいえます。この式で等号が成立するのは $r \neq 3$ に対しては $b_0(r) = 0$ かつ $r \geq 7$ に対しては $b_2(r) = 0$ が成り立つときに限ることが分かります。立方体、正4面体、正12面体およびすべてのフラレンではこの条件が満足されています。

ケプラーは、一つのかどで一個の正5角形と二個の正7角形が現れることは、角度の和が 360° を越えるので不可能であるといっています。

$$108^\circ + 2 \cdot \frac{5 \cdot 180^\circ}{7} > 360^\circ.$$

“Nam unus Pentagonus cum duobus Heptagonicis jam superat 4 rectos.”⁴

それぞれのかどで、不足 δ を 360° からこのかどに集まるすべての角度の和を引いたものとして定義しましょう。デカルトの結果は

$$(**) \quad \sum \delta_i = 720^\circ \quad (\text{すべてのかどにわたる和})$$

と同値です。ライプニッツ（関孝和と同時代の偉大な人物）はデカルトの結果をパリの図書館で写しました。デカルトの原稿はなくなってしまいましたが、ライプニッツの写しは現存しています。

Descartes 1596-1650

Progymnasmata
de solidorum elementis
excerpta ex manuscripto Cartesii
Leibniz 1676
(vgl. P. Costabel 1987)

Si quatuor angular plani recti
ducantur per numerum angulorum
solidorum & ex producto tollantur
& anguli recti plani, remanet
aggregatum ex omnibus angulis
planis qui in superficie talis
corporis solidi existant

$$360^\circ \cdot e - 720^\circ = 180^\circ \sum_{r=3} (r-2) f_r$$

$$e - 2 = k - f$$

$$\sum \delta_i = 720^\circ$$

δ_i (für einen Eckpunkt i) =

$360^\circ - \text{Summe der Winkel in } i$

このトランスペアランシーはドイツ語とラテン語です ($k=b_1$, $f=b_2$, $f_r=b_2(r)$)。デカルトの結果はオイラーの公式と同値であることが分かります。公式 (***) は凸曲面の曲率に関する積分

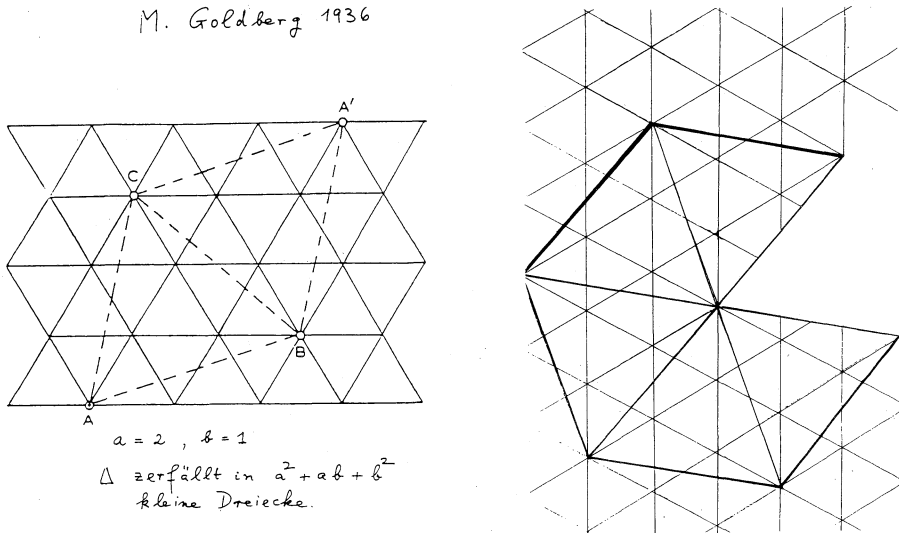
$\int k dF$ が $4\pi (=720^\circ)$ であるというガウスの有名な結果の離散版です。デカルトの肖像をのせた新しいフランスの紙幣が出るべきでしょう。次のようなお札を提案します。



ところでどのようにしてフラレンを構成したらよいのでしょうか？ 沢山の方法があります。完全な調査はしていません。最近、ヒルベルトモ

⁴ というのは、一つの正五角形と2つの正七角形は4直角をすでに越えてしまうからである。

ジュラー曲面と関係して Bertram Kostant “The Graph of the Truncated Icosahedron and the Last Letter of Galois” (Notices of the American Mathematical Society, 42 巻 September 1995) (かどを切った正 20 面体のグラフとガロワの最後の手紙) を調べました。このことに関しては京都大学の談話会で話しました。Kostant は P. W. Fowler and D. E. Manolopoulos, An Atlas of Fullerenes, Oxford, 1995 (フラーレンの地図) に言及していますが、この本をまだ見たことはありません。ここでは M. Goldberg によって 1936 年に与えられた構成法をお話ししましょう。次の図で説明されるように正 20 面体を $20(a^2+ab+b^2)$ 個の三角形に分割することができます。



これは三角形のみからなる凸多面体の組み合わせ論的構造を与えます。

$$r \neq 3 \text{ のとき } b_2(r) = 0, \quad b_2 = 20(a^2 + ab + b^2).$$

$b_0(5) = 12$ であり $r \neq 5, 6$ のとき $b_0(r) = 0$ でありかつ

$$b_0 = 10(a^2 + ab + b^2) + 2$$

$$b_1 = 30(a^2 + ab + b^2)$$

$$b_2 = 20(a^2 + ab + b^2)$$

が成り立ちます。D.L.D. Caspar と A. Klug 1962 (ノーベル賞) によると、ある種のウイルスはこのような多面体の頂点にキャプソメア⁵が位置した防護ボールのような構造(キャプシド⁶)を持っているとのことです。

次に双対多面体を考えましょう。面の中心は双対多面体の頂点(かど)に対応します。 b_0 と b_2 とが入れ替わります。

$$b_0 = 20(a^2 + ab + b^2)$$

$$b_1 = 30(a^2 + ab + b^2)$$

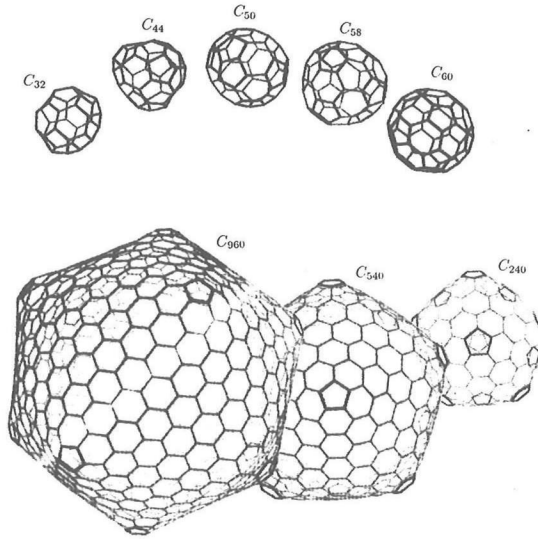
$$b_2 = 10(a^2 + ab + b^2) + 2$$

$$b_2(6) = 10(a^2 + ab + b^2 - 1)$$

⁵ キャプシドのたんぱく質サブユニット

⁶ ウイルスの核酸を包む、らせん状または多面体の構造、たんぱく質よりなる

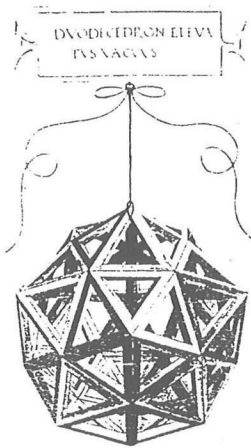
を満足するフラーレンが得られます。 $a=b=1$ のときがサッカーボールです。 $a=b$ のときは $b_0=60a^2$ になります。 C_{60a^2} の絵をお見せしましょう。



Fullerenes

by Robert F. Curl and Richard E. Smalley,
Scientific American,
October, 1991.

双対サッカーボール ($a=b=1$, $b_0=32$) はレオナルド・ダ・ヴィンチが描いています。



これは正 20 面体の対称性を有しており、32 個のキャプソメアを持ったピコルナウイルスの防護覆い (キャプシド) に他なりません。この点に関しては H.S.M.Coxeter “Virus macromolecules and geodesic domes” 1971 (ウイルス巨大分子と測地線ドーム) を参照して下さい。

[この講演はチューリッヒ工科大学とミュンヘンのシーメンス基金で行った講演を大幅に短縮改編したものです。]

(上野 健爾 訳)

Leonardo da Vinci
in Luca Pacioli
De Divina Proportione
Milano: Bibliotheca Ambrosiana
[1509]